



## 努力は場所を選ばない 地元で磨いたプロの技

ダーツプレイヤー  
やぎ ゆうや  
八木祐哉さん

出石町出身豊岡市内在住。24歳の時、豊岡にダーツバーができたことを知り、遊びに行ったことがきっかけでダーツを始める。会社員として働く傍ら、大会に出場して経験を積み、2015年に32歳でプロ資格を取得。ダーツの年間大会「2024PERFECTツアー」で近畿エリアランキング1位、年間総合ランキング12位の成績を収める。



▲自身の練習拠点にもしているダーツスペース「レイブズ」



◀Instagram

遊ぶ場所がない。若い時に感じていた豊岡の印象です。豊岡にできたダーツバーでダーツに初めて触れました。家庭用ダーツも購入して毎日練習するほど熱中し、気付けばプロの腕前になりました。

実は、ダーツのプロ選手はみんな都心部に移られます。競技人口が多い方が練習の質が上がり、交流も盛んになるからです。しかし、私は「田舎の間でも結果を残せるんだぞ」というのを見せたくて、今でも豊岡で練習を重ねています。

ダーツといえば、お酒を飲みながら行う遊びをイメージする方が多いと思います。実際は、部活動として行っている地域もあるほど、ダーツは健全なスポーツです。都会では若年層にダーツが普及している様子を見て「豊岡の子どもたちにもダーツを体験してもらいたい」という思いが芽生え、誰でも利用できる「ダーツスペース」を立ち上げました。豊岡に子どもたちの楽しめる場が増える一助になれば嬉しいです。プロの技を披露するので見に来てください。

### Toyooka Topics —とよおかの“旬”な話題—



地域おこし協力隊として城崎温泉で活動する松井未季さんが、ビジネスプラン発表会「LED関西」に出場しました。

ビジネスプラン発表会「LED関西」は、女性が社会で実現したい想いをビジネスプランというカタチで表現するイベントです。

総エントリー数が500件以上の中、10人のファイナリストに選ばれ「城崎温泉からゆかた文化を世界へ！」をテーマに、500人近い観衆を前に堂々と自身のビジネスプランを発表しました。(写真提供：條 晋太郎)

城崎温泉から浴衣文化を発信



植村直己冒険館に、シンガー・ソングライターの松任谷由実さんが植村直己さんをイメージして作詞した「星のクライマー」の歌碑が設置されました。3月17日の除幕式で、植村直己没後40年記念事業実行委員会の代表、竹村英樹さんは「歌碑をきっかけにこの地を訪れてもらい、不撓不屈の精神で世界へ挑んだ挑戦者がいたことを知ってほしい」と話しました。歌碑は、植村さんの精神を伝える新たなシンボルとなることが期待されます。

植村直己冒険館に歌碑建立  
松任谷由実さんが出席し除幕式

豊岡市 SNS



各施設・事業の SNS



\*広報とよおかは豊岡市公式ホームページやスマホアプリのマチイロでも読むことができます。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



環境に優しいベジタブルインキで印刷しています。